

床下断熱リフォームの効果



【足元の冷たさが解消】

床に断熱材がない

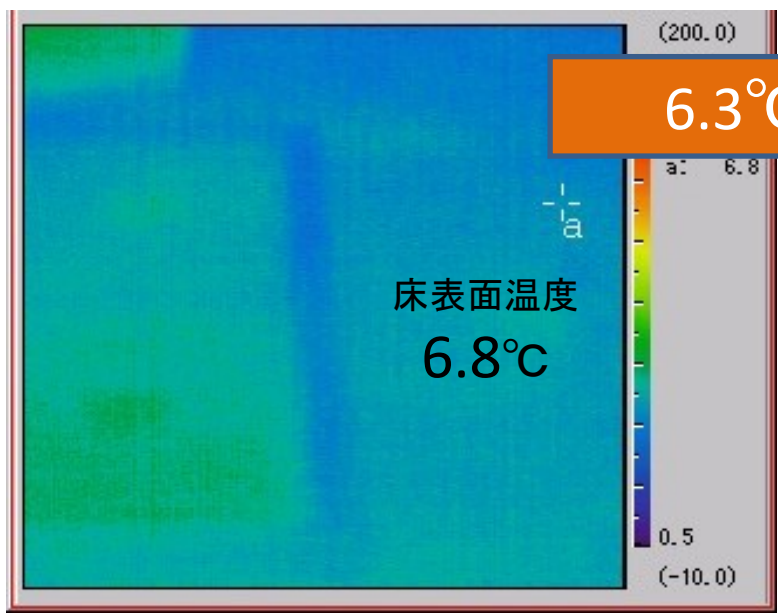
断熱材施工後

リフォーム
前

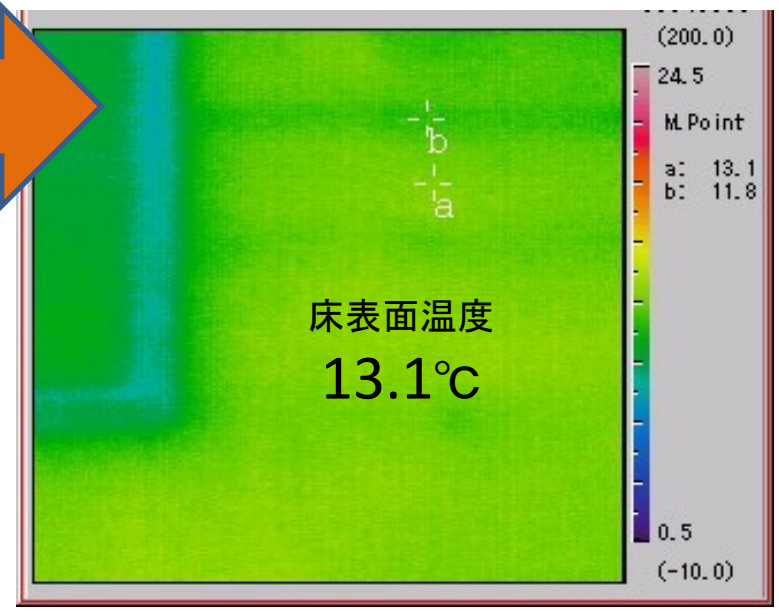


リフォーム
後

暖房で室温を18°Cにしたときの台所床の表面温度です。



6.3°C上昇



外気温度 0.3°C、室内温度18.3°C

外気温度 1.3°C、室内温度18.4°C

※リフォームの一例です。建物条件などで温度は異なります。



ヒートショックを起こしにくい という事実!

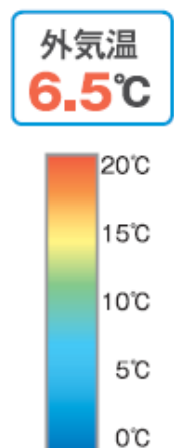
冬、暖房の効いた部屋から廊下やトイレに出ると、ゾクッとすることがありませんか？ これもヒートショックの一種です。

ヒートショックとは、室温の変化により血圧が急激に上昇したり脈拍が早くなったりする現象で、脳出血や脳梗塞、心筋梗塞などにつながることもあります。

現に、高齢者の自宅での死亡事故原因の25%がヒート

ショックによるもの、という驚きのデータもあります。このようなヒートショックを起こしにくい、健康な住環境をつくるには断熱性能を高めることが重要です。

高断熱高気密の家にすることで冷暖房をしていない部屋でも暑さ寒さがやわらぎ、家中の温度差が小さくなります。夏の熱中症対策にもなります。



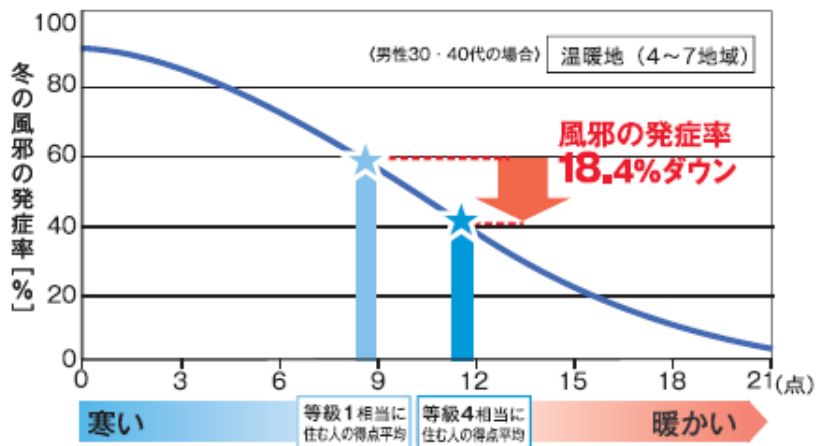
※「断熱性能が高い家」の仕様例は、P13【断熱コラム】内をご覧ください。
2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会(HEAT20)パンフレットより作成



冬、風邪をひきにくい

∟ という事実 ∟

下のグラフは、住まいの暖かさと冬の風邪の発症率の関係を調べたデータです。住んでいる家の断熱性能が高い人ほど自宅を「暖かい」と評価する得点が高く、その得点が高いほど風邪をひく割合が下がるという結果が示されています。



CASBEE健康チェックリストによる得点※

※「CASBEE健康チェックリスト」とは、建物の環境性能を総合的に評価するシステム(CASBEE)の中で、住まいの健康性を評価するために開発されたチェックリストです。

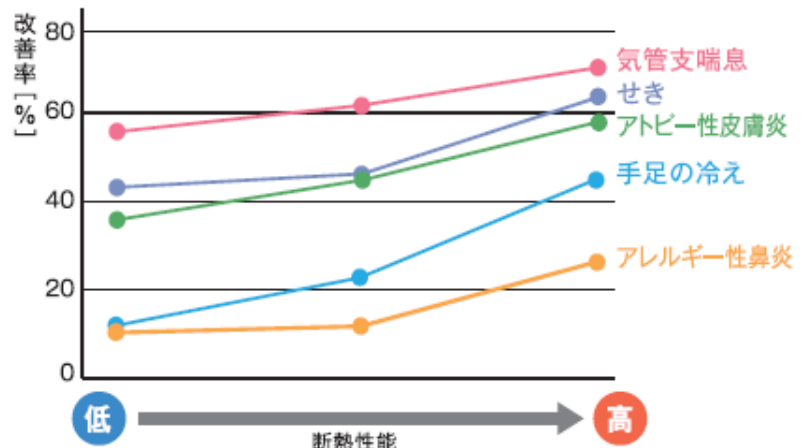
データ出所:慶應義塾大学 伊香賀研究室



体調不良が改善する

∟ という事実 ∟

下のグラフは転居した約20,000人にアンケート調査し、転居後の断熱グレードによる体調不良の改善効果を集計したものです。断熱性能が高い家に引っ越した人の方が、断熱性能が低い家に引っ越した人より、以前の住まいで感じていた体調不良の症状の改善率が高くなっていることが報告されています。



$$\text{改善率} = \frac{\text{新しい住まいで症状が出なくなった人}}{\text{前の住まいで症状が出ていた人}}$$

データ出所:近畿大学 岩前研究室